

# 第10回全国空手道指導者研修会



全員で基本形三を演武

第10回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）が8月16日～18日の3日間、東京・辰巳の日本空手道会館で、中学校保健体育科教員を中心とする38名の参加者が集まり実施された。

本研修会は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、我が国固有の伝統と文化に立脚した研修会として実施され、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導法及び専門的な知識・技術の充実を図り、以って中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

## ■1日目（8月16日）

はじめに栗原茂夫全日本空手道連盟副会長が挨拶に立ち、「平成24年に中学校武道必修化が完全実施されて以来、全空連では空手道採用に対して地道に努力してまいりました。現在、空手道を授業で実施している学校は272校となっていますが、本研修会を通じて学んだことを皆様方の地域の中学校で採用していただければ、教育としての空



栗原 茂夫 副会長

手道が今後発展していくと考えています。また、関係者の皆様のご努力により複数種目の実施が実現いたします。3日間が充実した内容となるようしっかり研修してください」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち、「中学校武道必修化の完全実施から8年が経過しますが、2年後には新学習指導要領が実施され、空手道を含む武道9種目が並列明記されます。また、本年度はスポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目のモデル実践校を全国で実施します。



三藤 芳生  
常任理事・事務局長

空手道の採用校は当初120校程度でしたが、現在270校余りと毎年増加しています。中学生を立派に育てるために、また、教育の場で空手道のすばらしさを伝えられるよう、本研修会でしっかり学び、更なる指導力の向上を期待しております」と述べた。

開講式終了後、栗原茂夫講師が『2020年東京五輪に向けた取組み～中学校武道必修化について～』と題して講義を行った。まず、来年8月に迫った東京五輪で空手が採用されるに至った経緯、世界の空手情勢、日本代表選手の強化コンセプト、大会の展望等を説明した。その後、中学校武道必

修化について空手道の特性や教育効果を説明し、「本研修会を経て空手道のすばらしさをしっかりと理解し、生徒に伝えて頂きたい」と述べた。

その後、初心者班、中級者班、上級者班に分かれて、それぞれ研修が行われた。初心者班は千葉佳永子講師、野中史子講師、松田健助講師が担当した。まず、準備運動を兼ねたストレッチを行い、正座、立礼、座礼などの礼法について説明した。その後、拳の握り方、その場での突き・蹴り、移動基本（順突き、逆突き）を行い、形（基本形一）の指導を行った。形はまず全員で行い、その後3チームに分かれて10分程度のグループ練習を行った。最後に全員で号令なしで基本形一を行った。



中級者班は井下佳織講師、中村武志助講師、竹見国雄助講師が担当し、参加者が先生役と生徒役に分かれ、基本形一の模擬授業を行った。

上級者班は小山正辰講師、佐藤彰助講師、亀山歩助講師が担当した。3チームに分かれ、団体形並びに形の分解をそれぞれ考えながら行った。

## ■ 2日目 (8月17日)

午前中は、まず岩城公二講師による講義『空手道授業の現状』が行われ、空手道授業の実施状況及び展望、新学習指導要領等について解説した。

「スポーツ庁は予算組みをし、複数種目実施のモデル校を指定するとともに、外部指導者の活用を推進している。空手道をはじめとする他武道にとっては、まさに今がチャンスである」「授業の全体計画を10時間とすると、空手道は3~4時間で、基本技から個人形、団体形まで実施できると思う。約束組手は時間的に厳しいが、学習指導要領にある“相手との攻防”は、形において“架空の相手との攻防”として捉えられる」と述べた。

その後、大道場へ移動し、実技に移った。まず井下講師によるアイスブレイクストレッチを行い、その後、岩城講師の指揮のもと基本技術を確認し、基本形一、基本形二を行った。

午後は、まず日野一男講師による講義『空手道における安全配慮と憲章の求める指導者像』が行われた。「令和元年8月現在、空手道の技術そのものが原因で、裁判になった事例は1件もない。今後も指導者は、空手道競技による事故訴訟ゼロの厳守義務がある」とした。また、“法の基本理念”について、「法の上に眠る者は保護しない」、「やるべき義務を果たさない結果の事故も、法の上に寝ていた結果と同じ」と説明した。

休憩後、大道場へ移動し、竹見助講師による骨盤を意識したストレッチで身体をほぐした後、野中講師による形の演武指導が行われた。突き、受けの基本動作の確認をし、基本形二、基本形三を行った。つづいてチーム毎に分かれて、“良い形を打つための表現方法”を考え、それぞれ模造紙に書き出し発表した。その後、チーム毎に30分間練習し、団体形試合のリーグ戦を行った。試合は、1チームずつ演武し、緊張感の漂う中で行われた。最後に野中講師より「試合結果に関わらず、団体形を通じて得られるものが多々あると思うので、ぜひ授業で取り入れていただきたい」と述べた。

## ■ 3日目 (8月18日)

はじめに、井下講師によるコンディショニングストレッチで心身ともにほぐした後、小山講師による約束組手が行われた。目付、間合、残心を意識させ、上段、中段の受けや突きを行った。「まずはしっかり間合を確認し、急がずゆっくり行い、その後、スピードを入れて行う。攻撃側は正中線を意識して突くこと。受けは正中線を外して受けること」とした。最後に上級者班3チームが団体形と分解を発表した。

閉講式では、中島昭博日本武道館振興課長が修了証を授与、小山講師が講師講評を行った。最後に有竹隆佐全日本空手道連盟専務理事が主催者挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。